

ゆりがご 園だより



2期(6~9月)のねらい。
からだづくり活動を通じ子供の仲間
関係の質を高めよう。 2024・7・1

全国の民主的な運営をしている園で構成している団体に、ゆりがごも加盟していますが、その北海道ブロックの総会が先日行われました。

総会後のフリートークでは、保育をめぐる各地の状況や、園の悩みなどが出されました。・過去最低の少子化・0歳児の定員割れ・保育士不足の深刻化・職員の世代間継承の難しさ等など…。どの現状も共感することばかりでした。

その中、ある園長先生の発言に、参加者一同、大きくうなずいたのですがそれは「食」に関する発言でした。子どもたちの「食」が変わってきたというのです。食材、かたち、内容が変わってきていると。これまで自分たちが良いと思ってやってきた「食」の取りくみ、変えたくはないのだが、悩みながら変えたことがあると…。

具体的にどのようなことなのか質問をすると、

- ・りんごをのどに詰まらせ窒息した事故を受け、りんごはスライスしたものを煮て提供していたが味が甘いので子どもたちはちっとも食べない。結局、0歳児にりんごは出さないようにした。
- ・さくらんぼは種を取りのぞいて提供。また、ぶどうのデラウェアは皮を除いたものを提供。
- ・園児が育て、収穫したミニトマトは、半分に切って食べる。等など…。

もちろん窒息につながるような危険なことは避けなければなりませんから、ゆりがごでも細心の注意をはらって食事を提供しています。特に乳児はかじりこぼしたり、飲み込む力がまだ弱く、大人がそばで見守り「アムアム、ごくんだねえ」と、口の動きを動作やこぼれを添えながら伝えてきています。が…。子どもが大きく口を開けなくても済む、よく噛まなくても済む、そんな形状での食事が幼児まで続くとなると、子どもの発達にも影響を及ぼします。

また、偶然ですが、たんぽぽ組(1歳児クラス)の懇談会でも「食」が話題になりました。園で食事の際に気をつけていることや大切にしていることを保護者たちに伝えました。危険性を知るとともに園と家庭が協力しあい、子どもの発達が豊かになることを願っています。

庭のさくらんぼを木に登って採り、口に入れ種をパッと出す年長児の姿を、今後も見たいなあと思うのでした。